

## 「トヨタ・コスタ・ドス・コライス」プロジェクト 沿岸生態系の保護に貢献

ブラジル | 主体：ブラジルトヨタ (TDB)

### 【概要】

世界で2番目に大きい沿岸生態系保護区「コスタ・ドス・コライス」(41.3万ha)は、1997年にブラジル政府が保護区として指定しましたが、保護活動が十分ではなく、生態系の絶滅が危惧されています。

TDBは2009年に「ブラジルトヨタ基金」を設立し、2011年からこの地域の動植物の生態系保護、2014年から特にブラジルで絶滅の危機にある水生哺乳類マナティーの保護をサポートしています。さらに地元学生の奨学金、大学での生態系研究の支援、地域住民の環境保全活動の活性化推進などを通じて地域社会へも貢献しています。

### 【これまでの実績】

2009年に自然生息地の川へ戻したマナティーから、2016年3月に初めて赤ちゃんが誕生。  
(2016年3月時点)



自然生息地へ戻ったマナティーたち

## 「ストップ・グローバル・ウォーミング」 自治体や学校生徒による地球温暖化防止活動を支援

タイ | 主体：タイ国トヨタ自動車 (TMT)

### 【概要】

2005年よりタイの環境NGO「TEI」と共同で、地球温暖化に関する意識啓発と持続的な温暖化防止活動への支援を目的に、自治体や学校生徒を対象とする環境取り組みコンテスト『ストップ・グローバル・ウォーミング』を行っています。コンテストに参加する地域住民や生徒は、地球温暖化のメカニズムや影響に関する知識や、ゴミ削減・リサイクル・省エネ・植林・輸送交通手段といった温暖化防止につながる取り組みについて学び、さらに自らが企画した取り組みを実践します。

### 【これまでの実績】

累計参加団体数：596団体  
(210自治体、266校、地域コミュニティ120)  
累計活動総数：2,902件  
削減温室効果ガスCO<sub>2</sub>質量換算：累計1万6,000トン以上  
地球温暖化化学習施設を3カ所に設立 (2016年3月時点)



校内で活動する生徒たち



優秀な活動を行った6団体が受賞

## 15年間にわたり砂漠化防止を支援

中国 | 主体：トヨタ自動車中国 (TMCI)、トヨタ自動車 (TMC)

### 【概要】

中国では、家畜の過放牧などによる砂漠化という深刻な問題を抱えています。TMCは2001年より、中国科学院などと共同で、河北省豊寧県シャオパーズ地区において砂漠化防止に向けた取り組みを実施。さらに、砂漠化の原因対策や地域住民の生活向上につながる植林を実施するとともに、支援終了後も住民によって活動が持続する仕組みを設けるなど、模索と試行錯誤を重ねることで「持続可能な植林」モデルを構築しました。2011年からはTMCIに活動主体を移し、現地事業者とともに従業員ボランティアによる植林など新たな取り組みを実施しています。

### 【これまでの実績】

累計植樹数：約500万株  
累計緑化面積：3,500ha以上 (2016年3月時点)



プロジェクト開始前(2000年)のシャオパーズ地区



2015年の同地区

## 「スマート・エコ・ドライブ」プロジェクト 大学生によるエコドライブ&交通安全キャンペーンを支援

韓国 | 主体：韓国トヨタ自動車 (TMKR)

### 【概要】

2015年よりソウル市や交通安全公団と共催で、エコドライブと交通安全の普及を目的に、大学生を対象とした「スマート・エコ・ドライブ」を開催しています。このプロジェクトは、運転免許を取得したばかりの大学生チームが、環境問題や安全運転マナー・エコドライブ方法を学び、TDC(Toyota Driver's Communication：飲酒運転疑似体験・子ども視野・高齢者疑似体験)を体験した後、自らエコドライブ・交通安全キャンペーンを企画・実施します。

### 【これまでの実績】

2015年度参加チーム数：20チーム  
 市民への直接の広報活動：総数1万3,167人  
 オンラインでの広報活動：閲覧回数3万6,884回  
 (2016年3月時点)



参加20チームから、優秀な活動を行った5チームが受賞



エコドライブ体験中の大学生グループ

## 「トヨタ・エコユース」プロジェクト 中高生および地域コミュニティによる持続的な環境改善教育プロジェクト

インドネシア/マレーシア | 主体：UMWトヨタ自動車 (UMWT)、インドネシアトヨタ自動車 (TMMIN)、トヨタアストラ自動車販売 (TAM)

### 【概要】

UMWTは2001年、本社周辺の中高等学校を対象に「トヨタ・エコユース」を開始。翌年からは全国から選抜された各校がチームを結成し、校内での節電や廃水処理など環境改善に取り組んでいます。UMWTは、学生に環境知識やトヨタ問題解決手法などを学ぶ機会を提供し、優秀な学校を表彰。2011年からは、地域の環境問題解決のため、参加校は地元コミュニティと連携することが必須となっています。2005年からは、TMMINとTAMが高校生を対象にインドネシア版「トヨタ・エコユース」を開始。これらの活動は、両国政府より教育的価値を高く評価され、積極的な協力をいただいています。

### 【これまでの実績】

マレーシア累計：参加校209 参加者数：2,267人 (学生&教員)  
 インドネシア累計：参加校1,100 累計参加者数5万2,000人 (学生&教員) (2016年3月時点)



マレーシア：リサイクルセンターについて説明する参加者



インドネシア：宗教儀式ごみから作ったレンガを説明する学生

## 「THE GREAT PLANT HUNT」 生物多様性 環境学習プログラム

10カ国（ベルギー、ドイツ、イタリア、スペイン、デンマーク、スロヴェニア、ラトヴィア、トルコ、アイルランド、ポーランド） 主体：トヨタモーターヨーロッパ（TME）

### 【概要】

TMEと環境教育財団のパートナーシップにより共同で発案した、特定植物とそれに関わる生物多様性に焦点を当てた環境プログラムを2015年11月に立ち上げ、多くの小学校に参加いただいています。多くの場合、植物は生物のライフサイクルにとって重要な一部分であり、餌となり、棲み家や避難場所となり、昆虫、鳥類、哺乳類を支えています。このプログラムは、環境教育財団の基本理念である教育的要素やキュー王立植物園が開発した教材などをもとに実践的な活動も織り込まれています。

### 【これまでの実績】

プログラム参加小学校数：308 参加教員数：3,000人以上  
参加児童数：3万4,000人以上（2016年3月時点）



学校周辺の生物多様性について学習した生徒たちが描いた絵（アイルランド）

## 事業所周辺・敷地内で環境保全

ベルギー 主体：トヨタモーターヨーロッパ（TME）

### 【概要】

2008～2013年、ブリュッセルにあるTME本社と近郊のテクニカルセンターをつなぐ約9kmの一般道で、ごみ収集や植樹を行うボランティア活動「グリーンウェイズ・プロジェクト」を実施。2014年からは、本社とテクニカルセンターの敷地に生息する生物の多様性保護・促進に向けた取り組みとして、敷地内に棲む生物の種に関する初期調査を実施。2015年からは、敷地内に「インセクトホテル（虫の巣箱）」を設置したり、従業員を対象に「生物多様性の写真撮影コンテスト」を開催しました。

### 【これまでの実績】

ボランティア活動：従業員とその家族約800人が参加。6,650Lのごみ収集、6,500本の植樹を実施。

生物多様性に関する取り組み：2014年、敷地内に菌類、植物、無脊椎動物、鳥類、哺乳類など、計200種程度が生息していることを把握。2015年、インセクトホテルに虫の生息を確認（2016年3月時点）



「生物多様性の写真コンテスト」における人気作品

## 「全米都市対抗年間水保全チャレンジ」 ワイランド財団とともに5年にわたり水の節約を啓発

アメリカ 主体：トヨタモーターノースアメリカ（TMNA）

### 【概要】

ワイランド財団の環境意識啓発の取り組み「全米都市対抗水保全チャレンジ」を5年にわたり支援しています。市長の呼びかけに応え、参加を希望する人は、Webサイト『私の水宣言』で、自分が今後実行しようと思う「水や資源の節約」「CO<sub>2</sub>排出抑制」などにつながる行動を選択式で宣言。その行動の1年間の効果をその場で知り、環境意識を高めます。「地球の日」のある4月はチャレンジ期間となり、市単位で住民の参加率を競います。最も参加率が高い市の参加者には、抽選で環境関連の賞品と合わせて新型「プリウス」が贈られます。

### 【これまでの実績】

50の州から4万5,000人が参加。40万4,000件の宣言があり、今後一年間で、合わせて19億ガロンの水節約を宣言（2016年3月時点）



ベンチャー市（2016年受賞市のひとつ）を指さす市長